

有年中情報モラル・セキュリティ行動宣言

私たちを取り巻く環境は、たくさんの情報が行き来している。見えない相手に対する思いやりやマナーを知ること、1人ひとりの大切な情報を守ること、自分の情報には「鍵」をつけて守ること、社会のルールを守ることなど、有年中生1人ひとりの「情報モラル」の普及に努めることをここに宣言する。

1 「ちょっとくらい」「これくらい」という誘惑に打ち勝ちます

人は誰でも「ちょっとくらい」という甘えの気持ちを持っています。情報は一度流れてしまうと、自分の意思で動かすことができません。「おもしろそうだからいいか」「これくらい大丈夫」という判断をするのではなく、「本当に大丈夫？」と自己の良心に恥じない『正々堂精神』を大切にして利用していきます。

2 相手の顔を思い浮かべてメッセージを送ります

自分の言葉が相手にどう伝わるのかは、自分では決めることができません。しかし、相手の顔を想像しながら、きちんと伝わる方法について考えていくことはできます。送信ボタンを押す前に、相手の顔を思い浮かべながら、自分の思いが伝わる言葉を選んで、もう1度確認します。そして、直接見えない相手だからこそ「礼儀」や「マナー」をわきまえ、自分も相手も大切にできるメッセージを心がけます。

3 大事なことは、大人と一緒に考えます

ネットは便利な反面、悪意を持って利用している人がいます。情報が正しいのかどうかの判断をしたり、クリックをする前に確認をしたりと、自分で判断していく力が求められています。しかしながら、中学生の私たちにとっては、その判断を自分の力でするのは難しいこと。迷った時は大人に相談し、一緒に解決をしてもらいます。そして、ネットでトラブルになった時は、1人で抱え込まず、必ず大人に相談して、一緒に考えてもらうことで、よりよい判断ができるようにしていきます。

有年中生全員が、ネットに利用される人になるのではなく、ネットを利用できる人になるために、ここに「有年中情報モラル・セキュリティ行動宣言」を制定する。

(平成27年7月 有年中学校生徒会 制定)